

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	有田市立糸我小学校	和田 啓次郎
学校所在地		
〒 649 - 0421 和歌山県有田市糸我町中番330 tel 0737(88)7116 fax 0737(88)5398		
担当者名		担当教科
三木 悠輔		6年生担当
〔学校の概要〕 糸我の里は熊野詣での往還で賑わう醇厚の里であり、この歴史と伝統の面影をとどめる里に本校が位置する。 全校児童は81名の小規模校である。保護者は、子どもに対して確かな学力とたくましい生活力を身につけさせることを願い、子どもの将来に大きな期待を寄せている。また、地域住民も地域の発展と子どもたちの成長を願って、あいがも農法による米作りや笛、太鼓等の伝統芸能の指導等、積極的に子ども達に関わってくれている。		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
5・6年生 34名	4名 職員4名	教室
実践研究テーマ		
豊かな心をもって 生き生きと活動し 自ら学ぶ子を育てる ～体験と座学の積極的な融合～		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	和歌山のよさ、再発見	
〔キーワード〕 世界遺産学習 熊野古道 情報活用能力		
〔単元目標〕 (1) 和歌山県の世界遺産に興味を持ち、学習課題を決め、見通しを持ちながら学習計画を立てる。 (自分で課題を見つける力) (2) 調べ学習、体験学習を通して情報を収集し、計画的に課題を追究する。(課題を解決していく力) (3) 自分の考えや思いを持ち、調べ学習や体験学習をした中で自分の考えを明確にする。(まとめる力) (4) 伝えたい内容や相手を意識して、表現方法を選ぶ。(伝える力) (5) 自分達の活動を振り返り、自分や友達の学びを評価する。(自分や友達の良さをみつける力)		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕 全体5時間 （「和歌山の世界遺産、再発見」 5時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 (1) 和歌山県世界遺産センター・・・次世代育成事業（世界遺産について、現地学習）		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1 和歌山県のよさを出す。 2 世界遺産に焦点をあてる。 3 自分の調べたい世界遺産についてのことを考える。	・多様な視点からよさを出させる。 ・世界遺産に焦点をあて、熊野行動のことや世界遺産について調べたいという意欲を持たせる。	ワークシート (自分で課題を見つける力)
2	4 本やインターネットを使い、調べる。 5 現地で学びたいことや、見ておきたい課題を考える。	・必要な情報を集め、調べさせる。 ・現地に行くことを知らせ、学びたいことを具体的に考えさせる。	ワークシート (課題を解決していく力)
3	6 世界遺産センターに行き、世界遺産について学ぶ。 7 現地で熊野古道を体験する。	・和歌山県世界遺産センターを訪ね、世界遺産について学習するとともに、熊野古道を歩かせる。	ワークシート (課題を解決していく力)
4	8 調べたこと、現地で学んだことをまとめる。 9 発表に向けて練習をする。	・調べたことや現地で学んだ情報を整理し、まとめる。 ・友達に対して発表をするということを意識し、練習をさせる。	発表用紙 (まとめる力)
5	10 発表をする。 11 振り返りをする。	・友達の発表をしっかり聞かせる。 ・和歌山県のよさを学んだ振り返りをさせる。今後、どのように生かしていきたいかを考えさせる。	発表用紙 (伝える力) ワークシート (自分や友達の良さをみつける力)
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>成果 「和歌山県のよさ、再発見」の実践を通して、子ども達は課題を持ち解決しようとする態度が身についてきた。熊野古道や糸我王子は子ども達にとってはとても身近なものであるため、興味をもって調べることが出来た。和歌山県のよさだけではなく、地域のよさとも捉えることができ、この伝統を守っていききたいという意見も聞くことができた。</p> <p>課題 和歌山県のよさは本当にたくさんある。今回の学習では世界遺産に焦点をあて調べたが、幅を広げて調べさせても良かったと思う。また、糸我の地域に絞って、熊野古道について考えさせることもできた。多様な追究ができるように今後、改良していく。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>(1) 世界遺産について、基礎・基本を学ぶことができた。</p> <p>(2) 糸我王子が映っており、熊野古道を身近なものに感じる事ができた。地域と結びつけることができた。</p> <p>(3) 現地学習を通して、知識・理解が深まった。</p> <p>(4) マスターさんとの会話で、コミュニケーションの方法を身に付けることができた。</p> <p>(5) 世界遺産を守り伝えていくことについて考えることができた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>世界遺産の学習を通して、私達や子ども達がこれから守り伝えていかなければならないということを改めて感じる事が出来る。子ども達自身がそのことを考え、感じる事ができたのも今回の世界遺産学習の効果である。スライドの中にも、危機遺産の紹介や道普請のことがあり、世界遺産は守らなければならないと感じることができた。</p> <p>将来の社会を担う子ども達が、世界遺産だけでなく各地域の伝統を守り伝えていくということを意識できる場である。世界遺産学習を通して、地球の未来に目を向けることができるのは意義が大きいと思う。</p>			

様式 2

平成 29 年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

今回、世界遺産学習に行きました。最初の説明を聞いて、分かったことがたくさんありました。

まず、ぼくは紀伊山地の霊場と参詣道は、複合遺産だと思っていました。しかし、説明を聞いて文化遺産だと知って、とてもびっくりしました。他にも、世界危機遺産という、危機がせまっている所があることです。これもとてもびっくりしました。熊野古道も修復作業に力を入れていることが分かりました。道の修復作業には、土や人がたくさん必要であると分かりました。

現地学習では、実際に歩いてみると自然豊かでおどろきました。道しるべが 500m ずつに立っていて、昔の人もあとどれくらいとかを気にしたんだなと思いました。

ぼくはこの 1 日で世界遺産の大切さとすごさを学ぶことが出来ました。